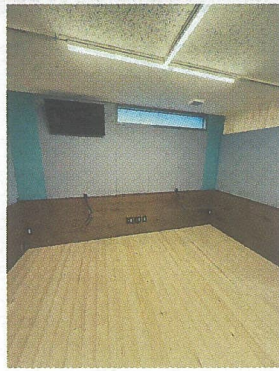


能登の古材の活用を支援

音楽スタジオや楽器にも使用

フルタニランバー

フルタニランバー・カンフー・ジュネレ(石川県金沢市、古谷一シヨウ(アジカン)隆明社長)は、能登半島のボーカルの後藤正文島地震で発生した古材の音楽スタジオの内装に使われた。また、その一部は2025年、能登の古材と能登ヒバ末に完成した、有名口を26年11月中には後藤氏に手渡す。能登には築100年を超える木造住宅も少なくないが、公費解の古材の活用について、家具や設計・デザインと協力している。



音楽スタジオの中の様子

だ。このほかにもさまざまな活用方法が模索されており、古谷社長は「古材の活用を通じて、県内外の人々の防災意識の喚起につなげていきたい」と話している。



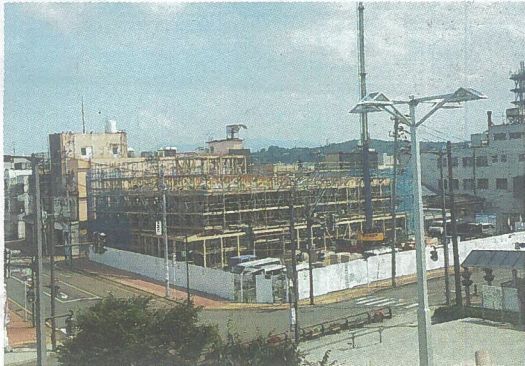
能登の古材と能登ヒバを活用したエレキギター。輪島市の西慶寺の古材をコントロールルームに使い、床には能登ヒバのフローリングを張っている。さらに、後藤氏のエレキギターでは、ボディには住宅の縁側で使われていたケヤキを使用、ネックには能登ヒバの圧縮材を使っている。

県内外で中大規模木造案件手掛ける

県産ブナ活用にも取り組む

志田材木店

志田材木店(新潟県長岡市、志田喜弘社長)は、中大規模木造物件向け部材の製造や加工を手掛けるメーカー。昨年開催された大阪・関西万博でも大屋根(リング)やパビリオンの部材製造やCLT加工も手掛けてい



建設中の第四北越銀行・新津支店

る。また、新潟県内で完成を予定している。も大型物件を手掛けて、構造躯体は梁に国産力おり、現在は第四北越ラ松集成材、柱に県産銀行の新津支店(新潟市)の建設が進んでいる。準耐火構造で、県産木造2階建てで延べ床面積は1168・93平方メートルで今年度中



ブナのカウンターが使われた魚沼市生涯学習センター

る。また、大規模案件受注沼市、浅井守雄代表)に備えて、倉庫の建設が受注した。地元産ブナの大断面集成材に対応する「スノーピー」増加する中大規模木造に、能力を強化することも、10年以上前から設備投資も進めている。作業スペースの確保を、同地域から出た200平方メートルの完成者で製品販売されるほ

森林・林業部門を強化

異業種とも連携し県産材利用拡大へ

坂詰製材所

坂詰製材所(新潟県阿賀野市、渡邊和伸社長)は、森林・林業部「県産材のプラ」の団地化を進めてい



土場での作業の様子

024年4月、森林管理の素材生産者である中として坂詰製材の施設や特殊伐採を得る。植林を実施する際、林再生を設意としており、再造林には、新潟県で実施している産地と消費者を結ぶ「つなぐプロジェクト」に参加している。26年から山主や建築家、家具メ



植林活動の様子

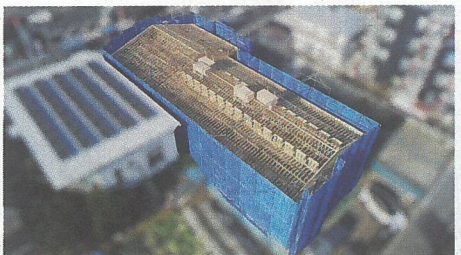
「カー」などの関係者にも参加してもらい、少花粉やカラ松の苗木を植えていく予定だ。県産材利用の取り組みでは、26年度の非住宅案件としてコンビニや商業施設、保育園などさまざまな案件

在来プレカットなど他社との連携強化

多雪地域も2桁までは対応可能

ランバーテック

でも富山県のような多雪地域でも採用物件がある。LIDトラスは、2×4のトラス屋根と在来軸組工法を組み合わせた工法。トラス屋根は、構造がシンプル



LIDトラスが採用された物件の外観(上)と内部(下)の様子

ランバーテック(埼玉県蕨市、齊藤一男社長)のオリジナルの非住宅向け工法「LIDトラス工法」は、2025年の受注棟数が24年と比べてほぼ倍増している。昨年は北海道や宮城県で初採用物件が、これまで対応可能だ。同社は、在来工法部野に参入するなかで、

無柱の大空間空間を設計事務所が得意。設計事務所から、建築段階からの関与に取り組む業者も現れている。同社では在来プレカット会社と連携し、躯体全体の加工にも対応しているほか、連携する工務店に委託する形で建て方も担うこと